

Y12b 暗黒星雲をテーマとした展覧会の開催

下井倉ともみ、土橋一仁、鉄矢悦朗、俵聡子、暗黒星雲プロジェクト展実行委員会（東京学芸大学）

2 Micron All Sky Survey Point Source Catalog に基づく暗黒星雲探査（土橋他、2011 年春季年会）で得られたデータは、現在、DSS に基づく暗黒星雲のデータとともに Web 上に公開され、世界中の研究者に利用されている（<http://astro.u-gakugei.ac.jp/tenmon/Atlas/index.html>, <http://darkclouds.u-gakugei.ac.jp/index.html>）。

宇宙に関する情報は様々なところにあふれているが、一般市民が物理的情報を含む科学データに触れる機会は少ない。そこで我々は、上述の暗黒星雲に関する公開データから、教育・アウトリーチに有用かつ効果的なデータを抽出し、一般向けのホームページを併設するとともに、個々の暗黒星雲の美しい減光量マップやそれらの解説パネル等、一般市民が楽しみながら学べる展示素材を開発した。

また、これらの展示素材を用いて、昨年 12 月に東京学芸大学内にて暗黒星雲をテーマとした一般市民向けの展覧会（タイトル「暗黒星雲 2010～星雲の時間・私たちの時感～」）を開催した。この展覧会は、東京学芸大学・環境プロダクトデザイン鉄矢悦朗研究室と協力して開催したもので、暗黒星雲を一般市民に分かり易く伝えることを目的として、暗黒星雲について天文学だけでなく、美術や文学など様々な面からアプローチした。企画の段階から天文、美術、国語などの異なる専攻の学生が一緒になり、展示素材を加工し、様々な展示物を製作して展覧会を作り上げた。製作物の例として、暗黒星雲の全天図を円状に配置して 360 度見られるようにするものなど、立体的かつダイナミックな展示物も配置し、天文学、芸術学、文学とが融合した非常にユニークな展覧会となった。本講演では、この展覧会について紹介する。